

○15 番（蔵野恵美子君）

立憲民主ネットの蔵野恵美子でございます。通告に従いまして、質問をさせていただきます。

今回の質問は大きく 5 点です。1 項目めは、家庭から出る土の回収事業について、2 項目めは、三鷹駅北口から広がるまちづくりについて、3 項目めは、市内公共施設の自習室について、4 項目めは、不審者情報の提示と、市の姿勢を示すことについて、5 項目めは、武蔵野桜まつりの出店についてでございます。

まず、大きく 1 項目めとしまして、家庭から出る土の回収事業について伺います。不要になった家庭から出る土の回収事業は、2020 年度の事務事業評価により廃止が決まり、2021 年度より行われていませんが、市民より回収を復活してほしいとの御意見を複数いただいています。先日開催された市民と議会の意見交換会においても、復活を望む御意見がありました。そこで以下伺います。

1、廃止となった背景や経過について伺います。

2、事業廃止前、直近 3 年間の事業実績、回収量、件数等を伺います。

3、家庭から出る土の回収事業を実施している都内自治体名、26 市だけでなく区部も含め、事業内容等を伺います。

4、家庭から出る土の捨て方等に関して、市民からの問合せは週や月に何件くらいあるか伺います。

5、家庭から出る土の回収事業の復活を望む御意見について、どのように把握しているか伺います。
最終的な土の処理に困るため、特にマンション住まいの方々が、鉢植えの植物やプランターによる家庭菜園の楽しみを自粛している状況をどう考えるかについても伺います。

次に、大きく 2 項目めとして、三鷹駅北口から広がるまちづくりについて伺います。

本年 10 月、建設委員会視察において、岐阜県大垣市のまちなかテラスの取組について、大垣市役所へ訪問し、事業内容について伺いました。大垣市では 2020 年 7 月、新型コロナウイルスで影響を受けた飲食店の支援と市街地の活性化を目的とし、路上や広場に物品販売や飲食スペースを設置する、まちなかテラス事業が始まりました。新型コロナ対策、3 密回避のスタイルとして、店先で飲食、買物をしながらまち歩きができる、居心地がよく歩きたくなるまちなかとして好評となり、スタートから 3 か月

後の10月には、沿道店舗が12店舗から27店舗に拡大しました。

翌月11月には、オフィス街にある大垣市役所に隣接する丸の内公園での社会実験、Marunouchiランチボックスプロジェクトとして、民間のキッチンカーでの販売を2週間、平日に実施し、翌月12月より今日まで約4年間、毎週金曜日に定例実施が続いています。さらに2021年10月には、大垣公園にてまちなかテラス参加の飲食店が集合し、記念撮影ブース、ショーの開催等のイベント、まちテラPARKが実施されました。2022年からは、これらの事業やその他のまちのシンボルとなる地を点として結び、線となったスクエアな回遊性コースを提案し、ウォークアブルなまちづくりイベント、まちなかスクエアガーデンの開催に至っています。

本市では、2017年策定の三鷹駅北口街づくりビジョンに位置づけられた、「住む人、働く人が集い、心地よく過ごす街」を目指し、2019年より、三鷹駅北口パブリックスペースを活用した社会実験を実施しています。本年10月1日から11月15日の開催で、計5回の実施を重ねています。主に三鷹駅北口から伸びる道路、中央大通り、かたらいの道、桜通り、中町新道の沿道店舗が歩道上へのテーブルや椅子を設置し、にぎわいの創出につなげる試みであり、岐阜県大垣市のスタート時点での取組と似ていると感じています。そこで以下伺います。

1、車の交通量調査について伺います。2019年9月の第1回開催前の8月の建設委員会において、当該社会実験に関する行政報告がなされました。そこでは、かたらいの道、桜通りにおいて道遊びなどのイベントを開催し、交通規制による一部区間車両通行止めを実施する、通行止めをした場合の周辺交通への影響を把握するために、定点を決めてそこに人を立たせて、方向別の通過交通量をカウントするとの内容の答弁がありました。

開催後に示された社会実験の報告では、かたらいの道での歩行者数が、期間中1.6倍に増えたとの記載はありましたが、交通量調査の報告は示されていませんでした。その後、2から5回目の開催では道遊び等の実施はなく、歩道上へのテーブルや椅子の設置をメインとした内容となっています。1回目の開催による車の交通量調査の結果はどうであったのか、その後、道遊び等による交通規制はしていないようですが、交通規制をした場合の交通量調査は1回目の調査で十分という理解でいいのか、今後の車の交通量調査の展望を伺います。

2、大垣市の取組では市の経費負担として、出店支援、重機設置支援、運営委託等に年間120万円が

発生しているとのことですが、本市の社会実験の開催回ごとの市の持ち出し費用の内容と金額について伺います。

3、大垣市の場合、市が一括して占有許可を申請し、主に商工会青年部が主体の一般社団法人大垣タウンマネジメントという市の委託団体が、出店者の選定や運営、相談を行っているとのことでした。本市では2019年8月の建設委員会行政報告によると、主体となる実行委員会は、武蔵野市、三鷹駅北口商店会、武蔵野マルシェ実行委員会の3団体との答弁がありましたが、現在も変わっていないか伺います。

また、主体団体それぞれの役割分担についても伺います。

4、開催回ごとに報告を発行し、分かりやすい内容の振り返りをされていることを評価しますが、今後の事業実施に向けての展望欄が、2回目以降毎回同じ内容であり、持続可能な仕組みづくりや新たな利活用の可能性等を検討していきますとなっています。毎回同じということは、課題として残り続けているとも考えられますが、現状の課題認識と今後の展望について伺います。

また報告にある持続可能な仕組み、新たな利活用の可能性について、具体的にどのような内容を指しているか伺います。

5、2017年に策定された三鷹駅北口街づくりビジョンは、おおむね10年間の方向性と取組を示しており、残り2年で10年を迎えようとしています。5回にわたる当該社会実験により、ビジョンにある三鷹駅北口の目指すべき姿のどの部分に寄与しているか、内容と進捗について伺います。

6、将来的には、当該社会実験の取組が岐阜県大垣市の取組のように日常的な継続につながり、市内全体に広がることを期待しますが、見解を伺います。

次に、大きく3項目めとしまして、市内公共施設の自習室について伺います。なお、本質問における自習室とは、机と椅子があり、数時間静かに学習ができる部屋やスペースを指すものとします。

市民より、市内公共施設における自習室の拡充を求める御意見を伺い、2022年第2回定例会一般質問において、自習室について質問しました。その際は、10代のお子さんがいる保護者から、近隣の吉祥寺図書館の自習室は時間制限やイベントの際に使えないなどの制限が多く、お子さんは吉祥寺東部の自宅からプレイスの自習室まで通っているため、自宅近くに安定した自習室を求める御意見がありました。

また本年8月に開催された子ども議会では、自宅近くに自習室が足りない、長期休暇中は学校の空き

教室を自習室として開放してほしいとの提案が、また本年 11 月に開催された市民と議会の意見交換会では、武蔵野プレイスのような自習室が理想であるが、そこまですてきではなくてもいい、かといってコミセンは入りにくい、全体的に自習室が足りないとの御意見が出ました。そこで以下伺います。

1、自習室は児童から大人まで需要があり、対象者が広範囲であり、施設によって利用条件、制限等が様々であること、また公共施設によって担当課が異なることから、市が管理する市内全体の自習室の情報が一括されておらず、市民にとって市内自習室の把握が困難になっていると感じています。市民にとっては、まず自宅の近くにどのような自習室があるか、また市内にはどのような自習室が点在しているか、全体を把握したいものと考えます。そこで場所、対象者、開催日時、席数、利用条件等を記した市内自習室一覧を作成し、市のホームページなどに掲載していただきたいと思いますが、見解を伺います。

2、上記のような一覧をつくる場合、取りまとめの担当課はどこになるか伺います。

3、自習室を求める御意見では、理想の自習室は武蔵野プレイスのような自習室との話が多く出ています。そのためか、武蔵境周辺に充実しているという認識を持たれているとも感じます。そこでまずは、地域偏在等の把握にもなるため、質問 1 のような一覧表をつくることは有効と考えますが、現状、市として自習室の地域偏在の認識、また本市が抱える自習室拡充の課題についての認識を伺います。

次に、大きく 4 項目めとしまして、不審者情報の提示と、市の姿勢を示すことについて伺います。

関東で強盗事件が連続発生しています。むさしの防災・安全メールでも、毎日のように市内の不審者情報が流れてくる状況であります。事件が起こってからの対応は警察の担当となりますが、市内防犯対策は警察だけでなく、市の業務でもありますので、以下伺います。

1、市民から市に連絡が来た不審者情報に対して、その後どう対処しているか伺います。

2、不審者対策として、警察との連携体制について伺います。

3、むさしの防災・安全メールや X、LINE において、市内不審者情報を発信されていますが、アプリを利用していない方も多くいらっしゃいます。そのため市のホームページのトップページの目立つ場所に、むさしの防災・安全メールと連携した表示窓の掲載、市報による重ねての注意喚起等も必要と考えますが、見解を伺います。

4、不審者を近寄らせない本市の強い意思や姿勢を示すため、まちを挙げてのキャンペーンやまちな

か放送、駅前に垂れ幕などを提示することを提案しますが、見解を伺います。

最後に大きく5項目めとしまして、武蔵野桜まつりの出店について伺います。

2019年4月の開催から5年ぶりに、本年、2024年3月31日に桜まつりが開催されました。久しぶりの開催や晴天もあってか、令和5年度事務報告書による来場者数は5万3,800人と、前回より2,000名ほど増加したと記されています。今回の開催より会場にエコリゾートが加わることで、広範囲にわたる催しや出店があり、来場者が前回よりも長く滞在されているという印象を受けました。特にエコリゾート前では新たにキッチンカーの出店でにぎわい、施設前の芝生広場では、レジャーシートを広げた家族連れや、桜の木の下で昼寝をされている男性など、ほほ笑ましい姿も見られ、新たな桜まつりの光景が展開されていました。今後引き続きの発展を願い、以下伺います。

1、2019年開催時と今年の出店ブース数について伺います。

2、桜まつりに出店できる条件、基準について伺います。出店数の上限等により、基準をクリアしていても出店ができない場合はあるのか、また募集についてどのような周知をされているか、締切りはいつなのか伺います。

3、今年はCO+LAB MUSASHINOに参加されたお店のキッチンカーによる出店など、新しい試みが見られ、今後も新たな企画を期待しておりますが、5年ぶりの開催により確認された課題や今後の展望について伺います。

以上で壇上での質問とさせていただきます。よろしく御答弁をお願いいたします。

○市長（小美濃安弘君）

蔵野恵美子議員の一般質問にお答えをいたします。

まず大きな1点目、家庭から出る土の回収事業についてでございます。

大きな1点目の1点目、事業が廃止となった背景、経緯についての御質問です。平成17年から御家庭で不要になった土を拠点回収し、樹木の培養土に資源化する事業を、事業者へ委託して行っていました。しかしこの事業者が資源化事業から撤退し、年間を通じて資源化できる事業者が近隣には存在しないことから、全庁的な事務事業の見直しの中で検討し、令和2年12月の総務委員会で行政報告を行った上で、令和2年度で事業を廃止いたしました。

2点目です。事業廃止前、直近3年間の事業実績、回収量と件数等についての御質問です。平成30年度の実績は、資源化量1万3,585キログラム、持参者数793人。平成31年——これは令和元年度です——の実績は、資源化量1万6,495キログラム、持参者数942人。令和2年度の実績は、資源化量1万7,730キログラム、持参者数967人です。

次に3点目です。家庭から出る土の回収事業を実施している都内自治体名、事業内容等についての御質問であります。多摩地域については、26市中で土を回収している自治体は、八王子市と町田市の2自治体です。八王子市は、園芸用の土を1回の収集で20リットル袋1袋までを可燃ごみで、町田市は、1回の収集で5リットルの袋1袋までを燃やせないごみで出せるとのことです。他の市は当市同様、土はごみではないことから、民間処理業者を紹介しております。23区については全てを把握しておりませんが、品川区、中央区、台東区においては資源化回収を行っていると同っております。また、足立区においては清掃事務所で回収していると同っております。

次に4点目です。市民からの問合せの件数についての御質問です。統計は取っておりませんが、電話、メールなどで御意見をいただくことがございます。

次、5点目です。土の回収事業の復活を望む御意見、最終的な土の処理に困るために、鉢植えの植物などを自粛している状況についての御質問です。土の回収方法についての問合せの中で、市による回収を望む声をいただくことはありますが、最終的な土の処理に困るために家庭菜園などを自粛しているといった声は、担当課のほうには届いていないところであります。土の回収事業につきましては、先ほど御答弁いたしましたとおり、全庁的な事務事業の見直し、行政報告を経て、事業廃止とした経緯がございますので、一定方向の整理がついた事業であると認識をしております。

次に大きな2点目です。三鷹駅北口から広がるまちづくりについて。

1点目、2019年に実施した交通量調査と今後の交通量調査の展望についての御質問です。実施済みの交通量調査では、桜通りの通行止めによる渋滞は発生しなかったことが確認できましたが、中央大通りから三鷹通りに抜ける脇道の通過交通が増加したことから、その対策は必要であると認識しております。今後の交通量調査については、補助幹線道路の全区間が相互通行となり、駅周辺における通過交通の迂回路が確保できた段階で、将来像の交通体系を再現する必要がある場合は、交通量調査も併せて実施したいと考えております。

2点目です。イベント開催回ごとの市の持ち出し費用の内容と金額についてであります。2019（平成31）年度は約900万円、2020（令和2）年度は約600万円、2021（令和3）年度は新型コロナウイルスの影響により中止、2022（令和4）年度と2023（令和5）年度が各約80万円、2024（令和6）年度が約140万円です。

費用の内容ですが、2019年度は、かたらいの道及び桜通りの一部を通行止めとし、オープンストリートとして、大規模な社会実験の計画立案から課題の整理、改善策の検討、広告費、資機材費、アンケート調査や分析等まで委託をし、2020年度は、委託の内容は同じですが、中央大通りの一部から中道新道一部の歩道を使った前年と比べると、小規模なオープンテラスとして実施しております。また2020年度と2023年度は市の職員の知見も蓄えられたことから、委託内容をスリム化し、社会実験の計画立案や実施支援、アンケート調査などは、担当職員自らが実施しております。そして2024年度は、2022、2023年度と同じ内容ですが、実施範囲を広げております。

次に3点目です。主体となる実行委員会についての御質問です。三鷹駅北口パブリックスペース活用社会実験実行委員会として実施したのは2019年のみで、それ以降は実行委員会メンバーに加え、沿道店舗——これは事業者です、市の連携協力の下、実施をしております。実行委員会メンバーである三鷹駅北口商店会は、現在では秋まつりなど、駅前広場等を活用し、地域イベントを毎年実施しております。また武蔵野マルシェ実行委員会は、自らが主体となり、かたらいの道や武蔵野タワーズの公開空地を使って、定期的にタワーズマルシェを実施しております。

次に4点目です。現状の課題認識と今後の展望、そして持続可能な仕組みづくりや新たな利活用の可能性についての御質問です。課題解決にはまず、地域活動ができるようなパブリックスペースの確保が必要であると考えております。今後は、社会実験に参加していただいている事業者をはじめ、商店会とも意見交換を重ねながら、次の一步につなげていきたいと考えております。

また、持続可能な仕組みや新たな利活用の可能性については、各ステークホルダーが主体的に、そしてより簡易にパブリックスペースを利活用できる仕組みづくりが大切であると考えており、これが各ステークホルダーの宣伝や売上げなどにつながることでモチベーションとなり、結果としてウォークブルなまちづくりが推進されるものと考えております。

次は5点目です。当該社会実験が、三鷹駅北口街づくりビジョンで目指すべき姿のどの部分に寄与し

ているのかという御質問です。パブリックスペースを活用した社会実験は、ビジョンが目指す、「住む人、働く人が集い、心地よく過ごす街」を実現するための取組の一つであると考えております。ビジョン全体に関わる取組ですが、あえてどの部分かと申しますと、基本施策6、三鷹駅北口にふさわしいにぎわいの創出に寄与していると考えております。

そのため継続的に実施しており、今年度は中央通りの北区間や周辺の店舗、事業者にも改めて社会実験への参画を促した結果、昨年の2事業者から10事業者に拡大することができました。これは継続して取り組んできたことの成果だと考えております。現在、今年参加していただいた事業者にはヒアリングをしている最中ですので、ヒアリング結果と利用者アンケートなども踏まえ、今後の在り方や地域との連携について、さらに検討を深めていきたいと考えております。

6点目です。社会実験の社会的な広がりについてですが、まさに御指摘の日常的な継続や全市への広がりを期待しております。三鷹駅北口では社会実験などの取組を通して、にぎわい創出の仕組みづくりができつつありますので、市としても、三鷹ビジョンで位置づけられている、かたらいの道の歩行者専用化や、玉川上水を活用した桜通りの歩道拡幅などを実施し、「住む人、働く人が集い、心地よく過ごす街」を目指していきたいと考えております。

次に大きな3点目、市内公共施設の自習室についてであります。公共施設の自習室に関する御質問でございますけれども、教育委員会の所管施設については教育部長から答弁いたしますので、私からはコミュニティセンターに関してお答えをいたします。

現在ほとんどのコミュニティセンターで学習室を設けており、学習室のないコミセンでも分館などを除けば、ロビーなどで自習ができる状況であると認識しております。ただし利用条件などについては、各コミュニティ協議会が各館の管理運営の中で工夫を重ねており、それぞれ違いもあることから、市としてどこまで具体的に一覧化ができるか、検討していきたいと考えております。

次に2点目です。取りまとめを行う担当課の御質問でございますが、現在は各施設の所管課が周知を担当しておりますので、今後の調整事項になると考えております。

続きまして、地域による偏在については、確かに武蔵野プレイスの存在によって、武蔵境エリアが充実しているという印象があるかと認識しております。ただし、コミュニティセンターの数は吉祥寺エリアのほうが多いなど、一概に偏在しているとも言い切れないのではないかと考えております。また第六

期長期計画・第二次調整計画の計画案においては、吉祥寺エリアでも本町コミセンの移転に合わせて、中高生世代向けの機能を複合化することが挙げられておりますので、その中で自習室についても検討していきたいと考えております。

大きな4点目、不審者情報の提示と、市の姿勢についてであります。

まず、1点目の不審者情報の連絡への対処についての質問です。市民から市に不審者に関する情報が入った場合、状況に応じて、警察、ホワイトイーグル、ブルーキャップ、吉祥寺ミッドナイトパトロール隊の各パトロール隊に情報共有しております。場所の特定ができた場合については、ホワイトイーグルの青色防犯パトロール車で、通常の巡回ポイントに加えてパトロールしております。子どもに係る不審者情報については市民安全パトロール隊にも情報共有し、パトロールの際の参考としてもらっております。なお、事案が複雑、または緊急性がある場合は、市民の方に110番通報をお願いする場合もございます。

2点目です。警察との連携体制についての御質問です。警視庁からの派遣職員を安全対策課に1名配置し、日頃から警察署との連絡調整に努めております。不審者情報など警察が送信するメールけいしちょうについて、より広く、また即時性を持って市民に周知するため、メールけいしちょうの発信に自動連携する形で、むさしの防災・安全メールでも同じ内容を配信しております。今後は、12月21日土曜日に、武蔵野警察署、武蔵野防犯協会と連携し、市内三駅駅頭で闇バイト・強盗ゼロイベントを実施するなど、連携を一層強め、市の安全・安心の向上に努めてまいります。

次に3点目です。市のホームページのトップページの活用、市報での注意喚起についての御質問です。現在、武蔵野警察署から配信されるメールけいしちょうでの不審者情報について、市ホームページで緊急情報として掲載できないか、庁内関係各課で検討しております。デジタルが苦手な方などにも配慮して、市報等も活用しながら、あらゆる世代に情報が届けられるよう、取組を進めてまいります。

次に、不審者を近寄らせない、本市の強い意思や姿勢を示すための取組についての御質問です。14万市民を守ることが、市長の一番重要な責務であると考えております。先ほどもお答えをいたしました、12月21日土曜日に市内三駅駅頭で、闇バイト・強盗ゼロイベントを実施いたします。また、令和7年1月1日号市報配布に併せ、闇バイト等の啓発チラシを全戸配布いたします。このような取組を通じて、市としての姿勢を示してまいります。

次に大きな5点目です。武蔵野桜まつりの出店についてでございます。

2019年は65件、2024年は63件の出店がございました。

2点目です。武蔵野桜まつりに出店できる条件、基準についての御質問です。これまでの経過から、友好都市、市内で活動する各種団体並びに市内商店会としているほか、庁内において推せんのあった団体にも出店いただいているところであります。

なお、出店者の選定は桜まつり実行委員会並びに企画部会が行い、会場内の動線や安全確保等の諸条件を加味して決定しております。このため、出店を希望されても御期待に沿えない可能性はございます。また出店者募集に関する周知におきましては、例年8月頃に主管課や商店会連合会を通して、各団体に確認を行っております。締切りを9月末頃に設定し、出店希望団体を取りまとめの上、10月から11月に開催する桜まつり実行委員会及び企画部会で協議を行っております。

次に3点目です。武蔵野桜まつりの課題や今後の展望についての御質問です。大変集客力のあるイベントであり、今後も5万人規模の来場者が想定されることから、事故等への対策は引き続き十分に考えていく必要があると認識しております。今年の状況も踏まえ、ステージの配置場所や各会場の設定などを改めて検証し、より安全に運営できるよう検討を進めてまいります。

他の質問に関しましては、教育部長より答弁をいたします。

○教育部長（真柳雄飛君）

私からは、大きな3点目のところの1)市内の自習室の一覧を作成し、市ホームページなどに掲載することについて、教育委員会所管の施設についてお答えいたします。教育委員会所管の施設では、武蔵野プレイス、中央図書館、吉祥寺図書館などを中心として、学習ができるスペースを開設しております。コミュニティセンター同様、各施設により運用ルールが様々であることから、表記の仕方やホームページへの掲載方法など、市長部局と共に検討していきたいと考えております。

3点目のところでは、市としての自習室の偏在の認識、また本市が抱える自習室拡充の課題についての認識について、教育委員会所管の施設についてお答えをいたします。先ほどもお伝えしたとおり、教育委員会所管の施設では、武蔵野プレイス、中央図書館、吉祥寺図書館などを中心として、学習できるスペースを開設しており、偏在しているとまでは考えておりません。これらの施設の中には、利用者な

どからのスペース拡充の要望を受け、貸出会議室等で利用ができない時間帯に開放を行っている施設もございます。引き続き利用者ニーズと施設の利用状況等を見ながら、柔軟な対応を検討していきます。

○15 番（蔵野恵美子君）

それでは再質問いたします。家庭から出る土の回収でございますけれども、事業廃止の直近の3年間の事業実績を出していただきました。感想としては、年間800から950件の件数があって、1件当たり平均するとですけれども、約17キログラムもあるということで、なかなかの実績があったと感じています。電話の問合せの件数がちょっと聞き取りにくかったのですが、事前に聞いたときは1週間に1件ぐらいという感じで聞いていたのですが、間違っていたら指摘してください。そう考えると月に四、五件で、年間にとすると約50から60件ほどになるかなと思っています。こちらもぼちぼちな件数かなと感じています。

これらの数字から、事業廃止から約4年たっていますけれども、処理に戸惑っていらっしゃる市民もいるのではないかなというふうに私は感じるのですが、これらの数字を踏まえて、数字をどのように捉えていらっしゃるか、伺いたいと思います。

それと、回収事業を実施している自治体を挙げていただきましたけれども、私が調べたところで、例えば中央区なんかでは小学校で回収をしていて、回収した土の再生作業を行って、無料配布していたりします。武蔵野市でも小・中学校などで落ち葉の回収をして、それを堆肥化する事業をしていますけれども、これと併せて何か土の回収ができないのかなと思ったのですが、見解を伺いたいと思います。

中央区のように、こういった都心でマンションが多い地域では、恐らく鉢植えの観葉植物だとか、プランターでの家庭菜園の土、こういったものが比較的多く出るのかなと思います。戸建てで庭があれば、その土の処理は何とかできるのですけれども、庭がなければこれは本当に困ります。私自身もマンションで、観葉植物が枯れたときに、この土をどうしようか、業者さんに頼むほどの量でもないしと思って、実家に帰るときにそれを袋詰めして電車に乗って、実家に持って行って庭にまいたと。何か、これでもどうなのと思いながらやりましたけど、そんなに量がなかったのと、実家に庭があったからどうにかなりましたが、なかなか難しい方もいらっしゃると思うのです。

だから武蔵野市でもマンション住まいの方は多くいらっしゃいます。マンションだからこそ、そうい

った鉢植えだとかプランターで植物を育てたいという欲求も。好きな人は本当にやりたいと思うのです。ただ処理に困るから控えているという話も同じマンションの方で聞いたりしますし、最近では御殿山の市民農園も閉鎖になってしまって、もう土いじりが好きな人の機会がなかなか減ってしまっているように思うのです。そういったことも併せてどうお考えか。先ほど答弁では、一定方向性が出ているというふうにお答えいただきましたけれども、そういったもろもろの状況を踏まえてどう思うかというのを、いま一度聞かせていただきたいと思います。

○市 長（小美濃安弘君）

家庭から出る土の御相談は、御案内いただきましたとおり、電話やメールでは週1件程度お伺いをしているところでございます。

他の質問に関しましては、担当部長よりお答えさせていただきます。

○環境部長（関口道美君）

蔵野議員からの再質問についてお答えしてまいりたいと思います。

まず、1点目の今まで土の回収をしてきた数値から、それを踏まえてそれをどう捉えているのかというところでございます。確かに数字的にはこのような事実があったというところですが、再資源化する事業者さんが撤退してしまったということが大きな理由でございまして、先ほど他の議員のときにもお答えしましたとおり、炉の問題といえますか、処理施設の問題もでございます。家庭ごみの処理を著しく困難にするということですか、処理施設の機能にちょっと支障が出るということですので、可燃ごみ、ごみとはちょっと分けて考えていく必要があるかなというふうに思っております。

その点を踏まえて、一定事業者さんとかがもしいけば、そういうところをお願いするというのも、また一つあるのかもしれないと思います。

また、2点目の中央区の取組でございます。武蔵野市でも落ち葉の回収なんかも行っておりますので、そのときに土をということですので、そういう取組はできるか、できないか、土のごみではないというところで、その集めるところのやはり最終的な処分先というのがちょっと決まりませんと、なかなか難しいのかなというふうには思っているところでございます。

また、マンションにお住まいの方の家庭菜園ですとか、観葉植物を育てるということ、これはある意味緑を育てていただくということに対しては非常にありがたい話ではございますけれども、それもやはり処分先の問題もございますので、そこは他の自治体のことですからいろいろなところを参考にしながら研究するかなというふうには思っているところでございます。

また、先ほどのその市民農園の閉鎖もありまして、土に触れる機会もないということもあるかなということは、今お話がありましたので、その辺も踏まえて考えなくてはいけないなというふうに思っております。

また、先ほどの他の議員の質問の中でも、市のホームページですとか、民間の廃棄物の処理業者を紹介するとともに、古くなった土の再生利用方法なども紹介していきたいというふうに考えておりますので、その辺も踏まえて研究してまいりたいと思っているところでございます。

○15 番（蔵野恵美子君）

土はごみではないから回収しないと、では古紙だとか古着だとかも回収していますよね。資源化できるということで。だからそう考えると、土だって再生できるという考え方であれば、やはりその事業者をもうちょっと頑張って探していただいて、何とかできないかなというのは率直に思いました。ぜひ前向きに検討いただきたいと思います。

これは事務事業評価では、土と油の回収事業を同じ項目で一緒にして廃止にしているのです。これもどうなのかなと今さら思っているのですが、違うものだと思うのです。異なるものを一緒に廃止という1項目にして、その理由が事業者の撤退になっているのだけれども、例えば油は少量であれば古紙に染み込ませて燃えるごみにできますし、量が多ければ固めるテンブルだとかで固めて、燃えるごみにできますけれども、土というのはもうどうしようもないのです。先ほどほかの議員も言っていましたけど、マンションの場合、再生したってどうしていいかわからないという、本当に困るわけです。ですので、それを一緒に考えて事業廃止されていますけど、それはもう一度ちょっと見直していただきたいというふうに思っていますので、要望しておきたいと思います。

続いて、三鷹駅北口から広がるまちづくりについてです。これは大垣市の場合、拡大のテンポが速くて、約2年間でまちをつなぐスクエア、回遊コースを提案されている。これがちょっと三鷹駅北口の社

会実験と異なることだなと思いながら伺っていました。三鷹駅北口の社会実験は、2019 年から始まって5年経過していますけれども、この目的が、2017 年度に示された三鷹駅北口街づくりビジョンにある、三鷹駅北口の 10 年後の目標像を探るためのものということ、そういった目的があったということとか、その複雑な交通体系だとか、地権者さんの御意向なんかもあったりで、そもそもの目的や状況が異なるということは理解しています。

しかしながらそうこうしているうちに、あと2年でそのまちづくりビジョンの改定時期となるわけですから、一定程度この社会実験の成果とかビジョンへの反映状況、これを整理する時期なのかと思いついて、質問させていただきました。

質問なのですけれども、オープンテラスを市が関与しなくても市民の自発的な開催ができるようにと、これが自主的な持続可能な開催ということで、1つ課題ということだったのですけれども、先日、11月30日にも開催されたタワーズマルシェ、あれなんかももう自主的な開催となって、その芽が育っているのかなというふうに感じました。

ただ一方で、大垣市のように市が関与することで、それが飛躍的に進展するという部分もあるわけですから、そこら辺、今後その市の関与というものをにぎわいづくりにおいてどう考えていらっしゃるのか、改めて伺いたいと思います。

それと、三鷹駅北口のここ数年の変化について、どう感じていらっしゃるかというのを伺いたいと思います。というのも、最近感じていることなのですが、三鷹駅かいいわいがこれから熱くなるのではないかなと私は思うのです。

本市では中央線の三駅を有していて、それぞれの駅圏で個性があるということは長らく思っているのですが、吉祥寺駅で言えば大小様々な商店街があって、もう商業地域として確立している。武蔵境駅は近隣に大学が幾つかあったり、10年くらい前からマンションの建設も増えて、比較的若い世代の方が多く、活気のあるまちと、何となく、私の印象ですけれども持っています。

一方で、三鷹駅北口というのはターミナル駅であって、大きな企業があったりすることから、通勤や会社員のまちというようなイメージ。駅から少し離れると割と個性的なお店とかが、ちょっと裏側なんかにあたりするのですが、駅前の雰囲気と言うと、まちの個性という意味ではちょっと薄いかなというふうに感じていました。ただ最近では中町に新しいマンションが増えて、子育て世代も増えてきて、

人口も増えているエリアだと。これからポテンシャルが高いエリアだと思うのだけれども、そこら辺、その表れが例えばそのタワーズマルシェとか、そういった自主的な開催やにぎわいが生まれているのかなと思います。

長らく武蔵野市に住んでいらっしゃる小美濃市長が長い目で見、まちの変化、三鷹駅北口の変化とかをどのように感じていらっしゃるのか。私なんかまだ15年ぐらいですから、それぐらいの変化しか分からないですけど、様々見ていらっしゃる中でどのように感じていらっしゃるか、伺いたいと思います。

○市 長（小美濃安弘君）

三鷹駅周辺はこれから熱くなると。私もそういうふうに非常に大きな期待を持っているエリアかなと思っています。先ほど蔵野議員からも、行政が関与することによって、さらにまちづくりが進むのではないかということに関しても同感でございまして、先日も全国市長会、都市問題会議が姫路で開かれたのですが、姫路の駅前もお城を一つの景観のサインとして、駅前周辺を非常にうまく開発しておりました。

そこにはやはり車を入れない地域だとか、ウォーカブルなエリアとか、もしくは歩道を使つてのマルシェができるような空間等も用意されていまして、まさに行政主導でそういったことができるようなまちづくりが行われていたわけでございまして、大いに参考にさせていただきたいなと。三鷹駅周辺も北口も、そういうポテンシャルはあるなというふうに思っておりまして、規模は全然小さいですけども、一つそういうことも考えられるのではないかなというふうに思っています。

私は市長選の公約の一つに、三鷹駅の北口ロータリーがやはり今交通的に危ないので、それを解消していきたいというふうに掲げさせていただきました。その一環として、やはりロータリーをいじること、これはまちづくりにも非常に大きく関与していくことですので、まだ形としては具体的には決まっておりますけれども、そういったことも踏まえながら、三鷹駅北口のまちが、より市民の皆様、また来街者の皆様にとって快適な空間になるように、取り組ませていただきたいと思いますというふうに思っております。

以上でございます。

○15番（蔵野恵美子君）

そうですね。公約にも書かれていたのですね。よろしく願いいたしたいと思います。そういった市をこれから牽引する可能性を秘めたエリアなのかなというふうにも思っていますので、そういったことを念頭にこの社会実験の成果を検証して、住人のパワーを引き出すような取組、そして最後には北口のビジョンにつなげていただけるよう、お願いしたいと思います。要望にしておきます。

それと公共施設の自習室についてです。11月30日の土曜日の夕方に、スイングで行われたケアリンピックに行った帰りに、武蔵野プレイスの自習室をちょっと見学に行っていました。土曜日ということもあってか、夕方であっても来館者がまず多くて、特に自習室のところ、例えば地下2階のティーンズスタジオのスタジオラウンジ、これはもう満席で、3階のスタディコーナーももちろん満席で、部屋の外では、参考書を立ち読み、もしくは床に座り読みしながら、次の時間帯の枠を待っている学生さんですか、列ができていて、もう本当に驚きました。4階の有料のワーキングデスクスペースは、8割方埋まっているというような感じでございました。

壇上で申したように、プレイスの自習室が安定した利用時間とか設備的に整った自習室ということで、吉祥寺の東部からプレイスの自習室に来ているという児童もいることを考えると、どうしてもプレイスが満席であふれるという事態になっているのではないかなとも思うのですけれども、先ほども少しお答えいただきましたけど、プレイスに集中していると思われる自習室の市内の現状について、どう思われているのか、いま一度聞かせていただきたいと思います。まだ調査とかはしていないでしょうか、感覚的なことになるかなと思うのですけれども、今現時点でどう思われているのかなというのを聞きしたいと思います。

それで大きな視点で言うと、図書館の役割を考えると、以前とは大きく変わってきているなと感じます。インターネットとかアマゾンとかそういったものの普及で、一般的な本はすぐに届けてもらえるし、中古であれば電車やバス代なんかよりも安く手に入る場合もあるわけで、そういった中で一方で、自習室のような居場所への需要はどんどん高まっているのかなというふうに感じています。そういった状況の変化というのは恐らく把握されていると思うのですけれども、今後は市内の図書館の在り方とか

市内公共施設の使い方を、根本的に見直すような時期にも来ているのではないかなと思うのですが、そこら辺について見解を伺いたと思います。

○市 長（小美濃安弘君）

プレイスの地下の子どもの居場所であったり、自習の場であったりというのは、やはりそれ用につくられたものがありますので、お子さんたちがやはり、より使いやすくなっているのかなというふうに思っています。

ただ実際に、例えば私の家の近くの本宿コミセンなんかも学習室があるのですけれども、結構よく使われています。非常に静かで、ひよっとすると認知されていないのかなと思うのです。いっぱいになっていないときもありますので。なのでそういったところもやはり武蔵野の公共の大切な資源として、先ほど一覧表という話もありましたけれども、どういう形でその認知を周知していくかというのは、これから考えていきたいなというふうに思っています。やはりせっかくあるスペースでございますので、有効に使っていただきたいなというふうにも思っています。

また先ほど図書館の話がございましたが、図書館もかつては、我々が小・中学校の頃というのは、自習の場であり、机もたくさん置いてあったのですけれども、途中からちょっとその趣旨というのでしょうか、どちらかという、あまりそういうところよりも、本をたくさん置いて、そこで自習をするというよりは、本を確認するとか、そういうスペース的になってきているのかなというふうに思っています。

これからまた時代が変わって、また自習するようなスペースになっていくのかというのは、ちょっと分からないところでありますけれども、御案内のとおり、図書館が自習の場ではなくなりつつあるというのは時代の変化で感じていたところでございますので、図書館も今後どういうふうに考えていくのかというのも、一つの考え方なのかなとは思っています。

感想をとということでございましたので。プレイスは有名に、非常に周知がされているので、子どもたちが集まりやすいと。なので一言感想を申し上げるとするならば、市内では、しかしまだまだコミセンも一つの学習室としては、私はもっと使っていただきたいと思っておりますし、そうであるならば、よ

り児童に使いやすい空間づくりもしていかなければならないと思っていますので、両方の方向性で頑張
ってというか、これから進めていきたいなというふうに思っています。

以上でございますが、教育委員会から何かあったらお願いします。

○教育部長（真柳雄飛君）

図書館の在り方と、ちょっと大きな御質問もいただいたところですが、自習室という視点で言えば、
やはり図書館は、図書があってそこで資料だとか自分の調べたいことだとかというところが本来のところ
だと思います。

ただ一方でやはり、特に長期休暇中なんかに受験生なんかが来て、場所取りというようなことをして
いることは把握をしておりますし、そういう機の確保を増やしていくと、今度は逆に資料閲覧で来て、
ちょっとその資料を座って見たいなという人の、そのスペースが減ってしまうというか、その辺りのバ
ランスをどうしていくかというのは、やはり課題としてあるのだと思っております。

いずれにしても今後また図書館基本計画等、そういった計画の策定のタイミングなので、そういう二
ーズの変化なんかも捉えて議論はしていきたいと思えます。

○15番（蔵野恵美子君）

そうですね。コミセンのほかにも例えば、市民会館にもひそかにあったりするのは、自習室が。そ
ういった情報を、まず全体を見られるというか、そういった何か工夫をやはりしていただきたいと思
います。そうすることで、何かプレイスに集中することが、逆に少しは緩和されるのではないかと思
いますので、実はここにあったのだとかということで、そういったことも考えられますので。

あとやはり地域偏在ということも可視化できる。場所だけでなく、席数だとか利用時間という部分も
含めた地域偏在というのも可視化できると思えますので、ぜひそれは担当課の縦割りを超えた、市民目
線での一覧といいましょうか、そういった情報公開をお願いしたいと思えます。要望にしておきます。

それと、不審者情報のほうはおおむね積極的な取組を予定されているということで、こちらはぜひ期
待したいと思えます。12月21日のキャンペーンのほうも注目していきたいと思えます。

桜まつりです。こちらが今のところその条件を満たしていれば、出店のブースで出すことは可能ということだと思いますけれども、ぜひ様々な団体が出店の挑戦をしていただきたいと思います。出店数が、2019年の65ブースから今年は63ブースにちょっと増えていると思ったら、減っているのですね。ちょっと減っているのだけど、おおむね総数的には変わらないというふうに思いましたが、これは入れ替わり率というか、それはどうですか。何か把握いただいているのですか。既存のものが何件ぐらいで、新規が何件ぐらいとか、もし分かればですけども教えていただきたいと思います。

それと、出店の基準が友好都市と商店会と啓発団体、市内のそういった団体ということで、民間の出店は難しいのかなと思うのですが、今年はこのCO+LAB MUSASHINOの関連のキッチンカーが加わったということで、私は大変新鮮な印象がありました。出店スペースに余裕があるのであれば、この先ほどの基準外の出店が少しずつあってもいいのかなとは思いますが、そこら辺はいかなのでしょうか、見解を伺いたと思います。

○市長（小美濃安弘君）

入れ替わり率等数字に関しては、ちょっとまだ把握していませんので、担当からお答えいたします。

○市民部長兼交流事業担当部長（田川良太君）

桜まつりについてのお尋ねでございます。2019年と2024年を比べたときに、2019年に来店いただいた65団体のうち、52団体が引き続きの出店という形で出られているということで、かなり多くの方がそのままスライドして出られていると。これは毎回の傾向なのですけれども、大体毎年同じようなところが出られていて、10団体ぐらいちょっと入れ替わるという感じでやっているところになります。

出店に関してはお褒めいただいたと受け取っているのですけれども、CO+LAB MUSASHINOの事業の展開と併せる形で桜まつりの出店という形で、今回キッチンカーを配置させていただきました。あれは窮余の一策というところも実はありまして、市道の222号線を挟んで、エコレポート

側と市民公園側とを一体として会場として仕立てるために、あそこにキッチンカーを置いて一体感を出すという形で、ちょっと配置したというようなところもあります。

あのような形で工夫はいろいろとできるかなというふうに思っていますが、いずれにしても、ふるさと意識の醸成であったりとか、友好都市との交流であったりとか、地域の様々な商業活性化の観点であるとか、そういったところに重点を置いて、出店者の皆様には伍していただければなというふうに思っております。

以上です。

○15番（蔵野恵美子君）

そうすると既存が52ということは、では新規が今年は11件という感じですか。大体17から18%ぐらいが新規ということで、意外と入れ替わっているのだなと思いました。何か同じようなイメージを持っていたのですが、まあまあ入れ替わっているのかなと思います。なので、既存の安定感ももちろん、今年もあそこに行こうといった楽しみというのも往々にしてありますので、そういった既存の安定感、安心感、それにプラスして、挑戦枠というか、そういった部分も少しずつ入れていって、新鮮味とかチャレンジとかいった部分も検討していただきながら、今後の発展を期待したいと思います。要望です。

くらのえみこ Official Site

<https://www.emikokweb.com/>